
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
第4回セメントタスクフォース会議（オーストラリア、メルボルン市）
議長によるサマリー

I. 緒言

APP セメントタスクフォースの喜多見淳一議長によって、アジア太平洋パートナーシップ第4回セメントタスクフォース会議が開会された。会議は、9月12日から13日、オーストラリアのメルボルン市のクラウンタワーズホテル（Crown Towers Hotel）で開催された。会議には、パートナーシップ諸国6カ国全てから約50人の代表者などの参加があった。

セメントの技術普及センター（Center of Excellence: COE）を活用した廃棄物処理（Co-processing）ワークショップが合同で開催された。

本会議に入る前に、議長はインドのデリーで開かれた前回のタスクフォース会議以降の出来事と進展（7月に開かれた東京のPIC会議を含む）を振り返った。

II. 協議事項の採択

協議事項案とその注釈が、米国の新プロジェクトに関する提案を協議事項IVに加えることで、提案通り採択された。議長が会議の主な目標と手順を定め、会議が開会された。

III. セメントタスクフォース・アクションプランのプロジェクトのアップデートと討議

アクションプランに示された3件の重要短期プロジェクトの各管理グループが、当該プロジェクトの進展と成果、また今後の予定を説明した。この協議事項のもと議長は、予定されている閣僚会議に向けた具体的な成果を示すよう、討議し取組むことをメンバーに求めた。プロジェクト全般の討議や合意の主なものは以下に示すとおり。

CMT-06-01：現状報告

日本が、会議当日現在の現状報告書の草案を示した。これは、前回のタスクフォース会議で合意された変更や修正を反映したもので、当タスクフォース会議の後すぐに中間現状報告書を発行することを提案した。現状報告書の日程、対象範囲、その他の項目に関して活発な討

議が行われたのち、セメントタスクフォースが以下の事項を実行することで同意された。

1. 当会議の後すぐに、「項目 9」を除いた部分の CO₂ 削減取組みの障害に関し、アンケート調査の結果にもとづいた中間報告を発表する。
2. 次のタスクフォース会議までに更新された最終報告書を発行するよう努力する。
3. 中国のセメント業界に対し、CSI CO₂ プロトコルのキャパシティビルディングを継続実施する。

CMT-06-02：ベンチマーキング（ベンチマーク開発）

日本とオーストラリアが、当分野に関する進展についてのプレゼンテーションを行ったのに続き、日本の PIC メンバーである本部氏が、東京での前回の PIC 会議の前に行ったように、同様の目的を持った鉄鋼タスクフォーの成果を紹介するプレゼンテーションを行った。この項目に関する討議の結果、各パートナーが、CSI のプロトコルを使用し、2015 年までのネットおよびグロスの削減可能値（ポテンシャル）をそれぞれ推定するようつとめることで同意された。この推定値を次のタスクフォース会議で集計し、APP 全体の CO₂ の数値を算出する。

この協議事項に関連し議長が、推測削減可能値は、義務ではなく自主的な値であることを再度確認した。

CMT-06-03：法／規制問題

米国が、技術および経済的な性格のものなど、より広い範囲の障害を扱い、プロジェクト 1 番および 2 番の結果との整合性を維持した、改訂後の 2 段階プロジェクトの提案を示した。第 1 段階の結果は 2007 年の末までに示される予定である。

CMT-06-04：製品の応用

米国は、近頃発表された EPA の調査結果のため当プロジェクトは予定よりも早く進展するだろうと報告した。全てのタスクフォースメンバーが、当プロジェクトに対する強い指示を示した。

CMT-06-05：技術普及センター（COE）

中国がこれまでの進展を示したプレゼンテーションを行ったのち、オーストラリアが提案した諮問委員会の設立が承認された。2007 年 10 月 13 日までに諮問委員の具体的な候補者が発表される。メンバーは、CSI の研修コースを COE 諮問委員会の優先事項のひとつとする

ことを確認した。CSI は、専門家を派遣し開発ツールを提供することで研修コースを支持すると述べた。

その他のプロジェクト

オーストラリアが CMT-06-06：セメントキルンコジェネレーション、CMT-07-07-Sub.2：セメントキルンでの有害溶剤性燃料の処理、CMT-07-07-Sub.3：セメントキルンでの有害バイオ固形燃料の活用、の 3 件について、現状を報告した。

当協議事項中の多くのセッションを閉会するにあたり、議長は、タスクフォースは継続プロジェクトの進展状況を把握するよう努めること、また、全メンバー国は新たに設置された「プロジェクトステータスレポート」（Project Status Report）の様式を使用して定期的な報告を行うことの必要があることを強調した。

IV. 具体的な問題に関する協議

タスクフォースは、セメントタスクフォースのアクションプランに加えるべきかどうかの決定にグループの同意を必要とする、新たに提案されたプロジェクト数件について、意見交換を行った。

討議の結果、タスクフォースは日本の提案した「性能診断」（Performance Diagnosis）をアクションプランのプロジェクト第 10 として採用することで同意した。

インドの提案した 3 件の提案については、タスクフォースがその可能性に留意し、今後の進展を見守ることで同意された。継続討議については、プロジェクトの資金調達はタスクフォースの権限の範囲外のことであり、PIC レベルでの討議にゆだねる必要があることで一致した。

米国が、米国政府の資金でインドにおいて実行される新たなプロジェクトを提案した。当プロジェクトの基本的な概念はメンバー全体の承諾できるものだったが、既存のプロジェクトとの重複を避けるよう、プロジェクトの範囲を変更する必要があることが同意された。結果は、次のタスクフォース会議で提示するか、あるいはその承諾を文書通信で連絡する。

グループは、新たなフラッグシップとなる候補プロジェクトを検討した。詳細な検討の結果、以下の 3 件をセメントタスクフォースのフラッグシッププロジェクトとして提案すること

が決まった。

- (a) プロジェクト CMT-06-05 : 技術普及センター
- (b) プロジェクト CMT-07-07 : 有害廃棄物利用—セメントキルンにおける有害廃棄物利用のベストプラクティス
- (c) プロジェクト CMT-07-10 (新プロジェクト) : 性能診断

プロジェクト CMT-07-08/Sub.2 「セメント製造のための高エネルギーバイオマス燃料」

(High-energy Biomass Fuels for Cement production) に関しては、この時点では保留し、今後、フラッグシッププロジェクトの候補として扱うことで、タスクフォースは同意した。

新たに提案が承認されたフラッグシッププロジェクトは、次の APP 閣僚会議（10月15日インドのニューデリーで開催予定）の公式事務処理予定表の一部とできるよう、できるだけ早い時期に ASG を通して PIC メンバーに通知される。

アルミニウムタスクフォースとの残留ボーキサイトプロジェクト、鉄鋼タスクフォースとの PCB 廃棄プロジェクトがあり、再生可能エネルギー及び分散型電源 (REDG) タスクフォースとのバイオマス/バイオディーゼルプロジェクトなど、他のタスクフォースとの協力の可能性について報告を受けた。これに鑑み、インドは継続して情報収集にあたるよう要請を受けた。

V. 関連国際活動

事務局が IEA (国際エネルギー機関) について、日本のメンバーが世界経済人会議 (WBCSD) /セメント部会 (CSI) の活動について、それぞれ最近の関連活動を報告した。

VI. 次のステップと結論

議長は、APP 閣僚会議が間近に迫っていることをタスクフォースメンバーに喚起した。セメントタスクフォースは、アクションプランの成果を確認し、結果を PIC メンバーに配布する必要がある。

議長が、会議の内容と決定事項をまとめた。

COE ワークショップが 3 日半にわたって開催された。その中で実施された工場見学では、

参加者が知識と理解を大いに深めることができた。

米国が、次の会議を 2008 年 5 月 13 日～15 日に米国のサウスカロライナ州チャールストン市で主催するという提案を行い、タスクフォースによりこれが承諾された。

議長が、主催国オーストラリア、同国のセメント産業連盟（Cement Industry Federation）、また全参加者に謝意を示し、閉会した。